

平成27年度 岡山市埋蔵文化財センター講座第3回

## 弥生時代の石器の流通

草原孝典

### 【講座の概要】

岡山平野は、古代に吉備と呼称された地域の中核地に相当する。弥生時代後期になると、上東式という土器型式が分布し、中核地としての性格が弥生時代まで遡ることが確認できる。この地域の石器流通に関しては、弥生時代中期の畿内の石包丁の石材分布が、生産地から離れるにしたがって比率が減っていくことから、拠点集落間の連携が成立した大社会を形成していたということと対比させ、個別の集落ごとに石器石材を調達した、いわば縄文時代の集落的な社会が想定されている。しかしながら、岡山平野には木製品の優品を多量に出土し、しかも九州系の土器も出土する大規模な集落遺跡である南方遺跡がある。岡山平野の拠点集落と考えてよく、ひょっとすると、中部瀬戸内の拠点集落であった可能性もあると思われる。それはともかく、少なくとも個別の集落が独立的に存在しているよう様相とは思われない。そこで、今回の講座では、岡山平野を中心とした吉備における石器の流通関係を整理することで、この点を検証する。

#### （打製石包丁）

打製石包丁の石材は讃岐産のサヌカイトで、磨製石包丁は砂岩などの集落近辺で産出される石材で製作されている。各集落遺跡から出土した石包丁の石材比率を見ると、島嶼部は100%サヌカイトで、旭川流域以外は集落ごとに様相が異なっている。旭川流域は、岡山平野から離れるにしたがってサヌカイトの比率が下がっている。旭川流域のみは集落間の連携関係ができあがっていたことを推測させられる。

#### （戦闘用石鏃）

戦闘用石鏃の分布傾向は、島嶼部で比率が高い傾向が認められる。サヌカイト流通を直接担っていたことに起因すると考えられる。

#### （石器組成からみた農業生産力）

石包丁・石鏃・蛤刃石斧の比率から農業生産力の高さを推測したところ、旭川下流域が最も高いと考えられた。

#### （まとめ）

岡山平野の石器流通を見る限り、旭川下流域では、畿内と同様に集落間連携が社会的に形成されていたと考えられる。

### 【参考文献】

高田浩司2001年「吉備における弥生時代中期の石器の生産と流通」『古代吉備』第23集  
草原孝典2015年「石器組成からみた岡山平野の弥生集落」『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要』第7号

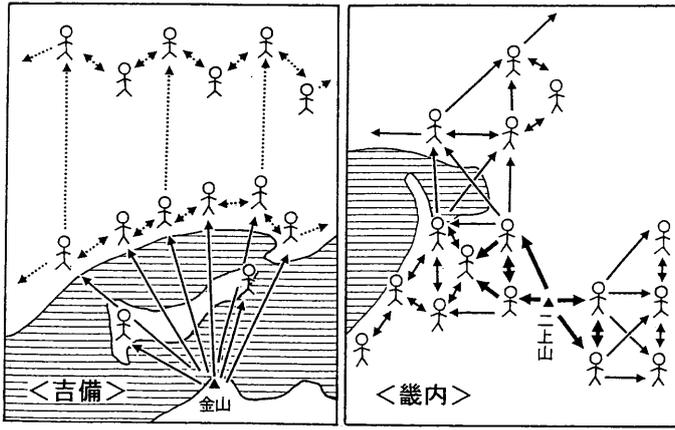


図1 吉備と畿内のサヌカイト流通概念図

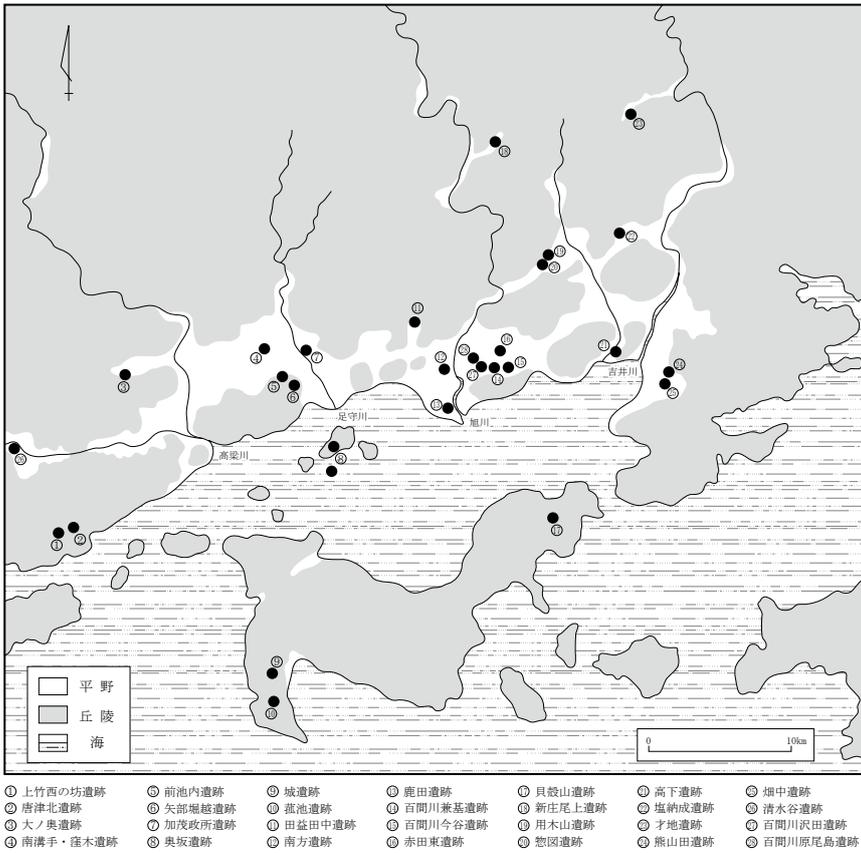


図2 岡山平野の弥生前・中期集落

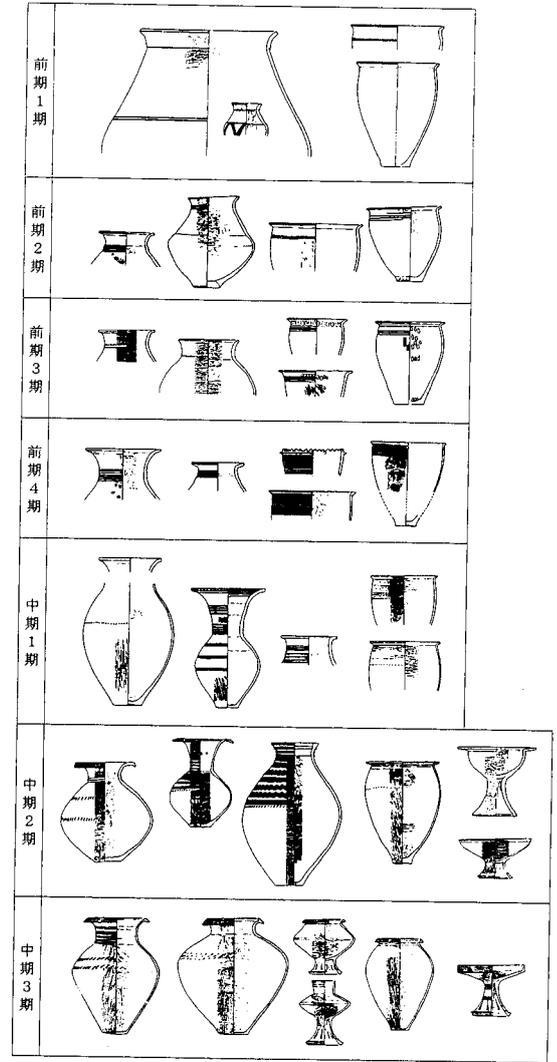


図3 岡山平野の弥生前・中期の土器

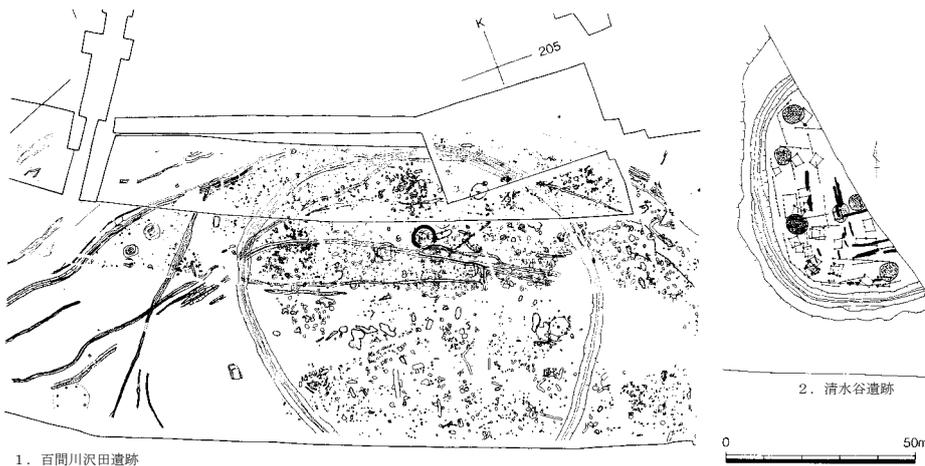


図4 岡山平野の環濠集落

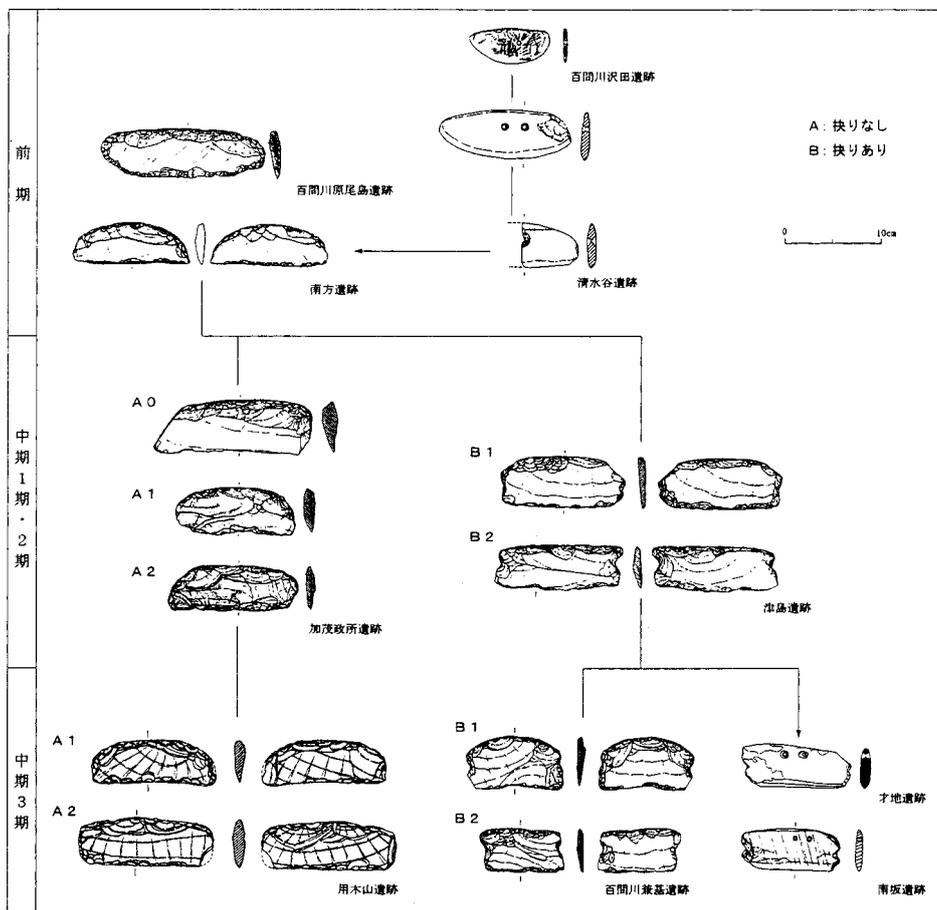


図5 打製石包丁の変遷

番号	遺跡名	サヌカイト製	上記以外
1	上竹西の坊	4	0
2	唐津北	1	1
3	大ノ奥	0	1
4	南溝手・窪木	12	14
5	前池内	7	1
6	矢部堀越	39	0
7	加茂政所	11	1
8	奥坂	5	0
9	城	7	0
10	菰池	13	0
11	田益田中 (溝66・67)	6	2
12	南方 (津島)	19	2
13	鹿田	3	0
14	百間川兼基	36	1
15	百間川今谷	14	2
16	赤田東	10	2
17	貝殻山	11	0
18	新庄尾上	4	2
19	用木山	156	25
20	惣園第1	73	9
21	高下	14	1
22	塩納成	4	2
23	才地	7	11
24	熊山田	2	2
25	畑中	1	2

数字は出土点数

表1 中期の石包丁出土個数

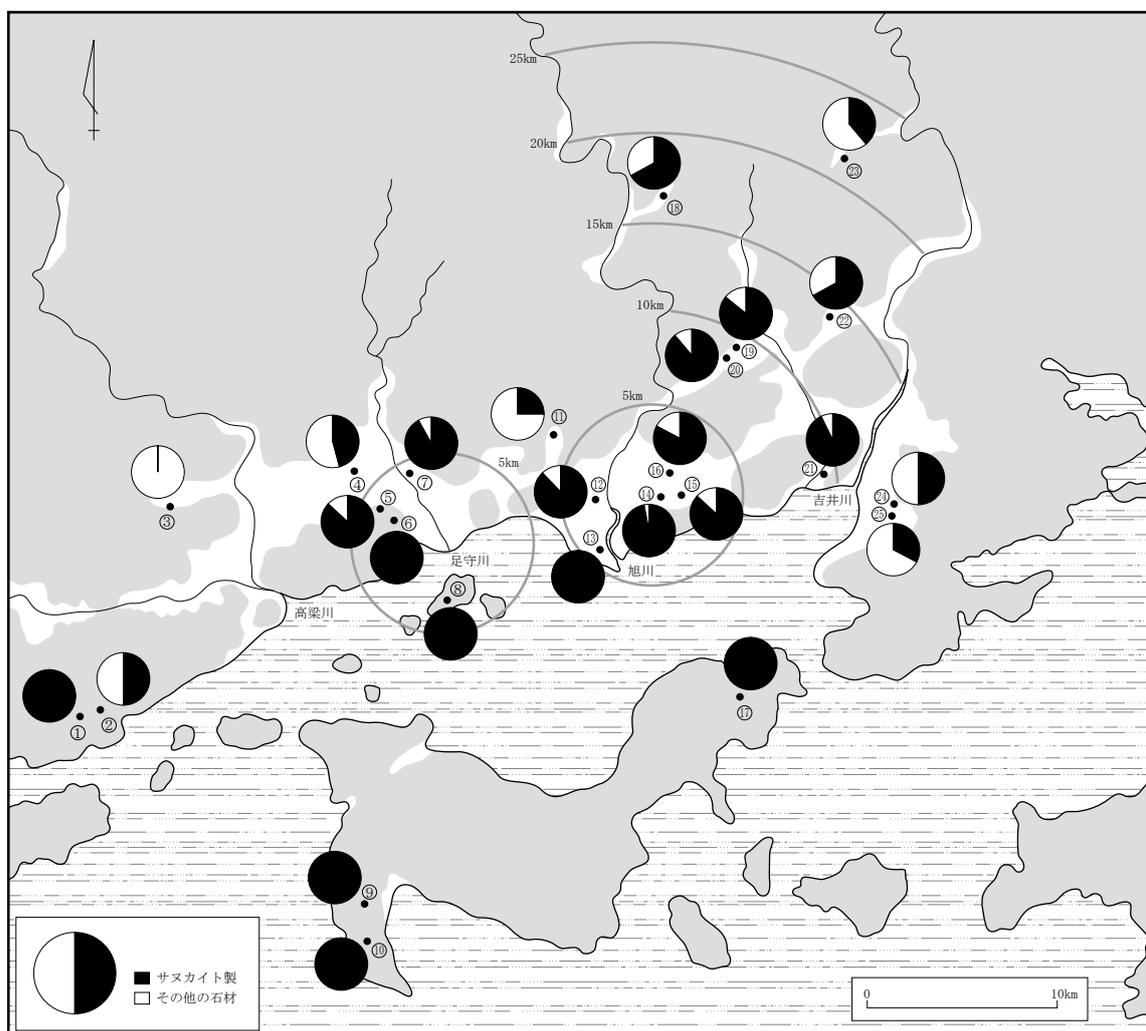


図6 中期の石包丁の比率

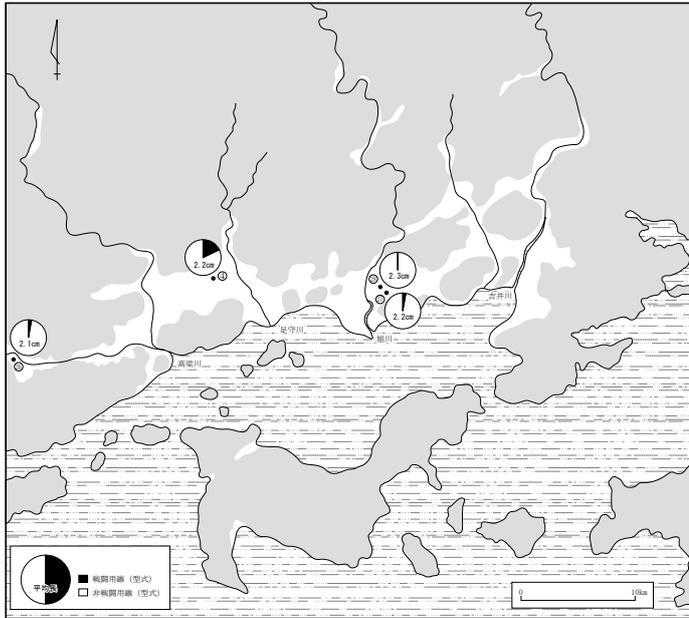


図7 前期の石鏃平均長 (cm) と戦闘用石鏃 (型式) の比率

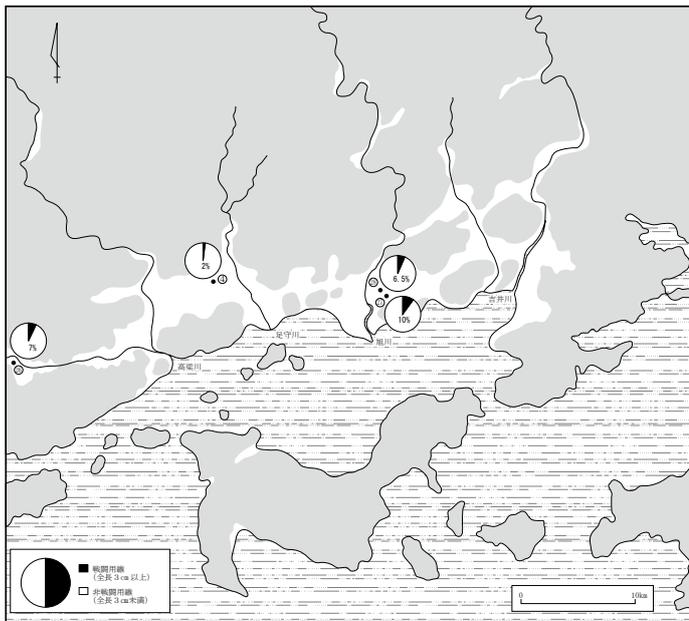


図8 前期の戦闘用石鏃 (全長3cm以上) の比率

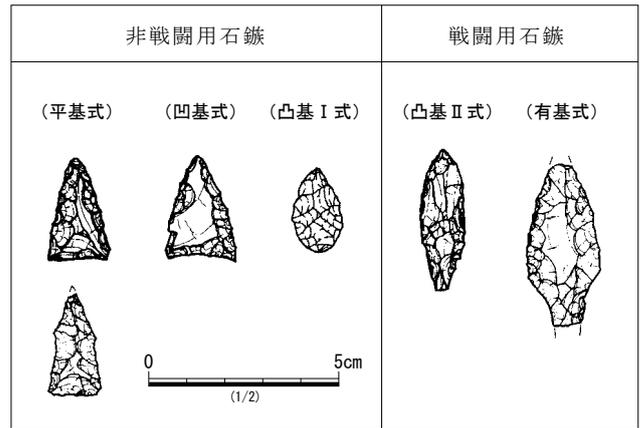


図9 石鏃分類図

番号	4		26		27	28		
遺跡名	南満手・窪木		清水谷		百間川 沢田	百間川原尾島		
石 鏃 の 長 さ (cm)	2.00	2.50	1.60	2.50	2.30	1.75	2.65	1.90
	2.15	2.50	2.00	2.30	2.40	2.30	2.30	2.45
	2.10	1.81	1.60	3.10	2.50	2.60	1.85	2.10
	2.65	1.60	1.90	2.30	1.60	1.67	2.70	2.00
	2.25	2.15	1.70	2.00	1.90	2.34	2.70	1.90
	2.45	2.65	1.80	1.70		2.94	2.25	2.40
	1.70	1.90	1.90	2.30		3.65	2.80	
	2.60	2.45	1.70	2.60		2.00	2.65	
	1.85	2.50	1.60	2.40		2.22	1.80	
	3.25	2.30	1.70	1.90		1.70	1.50	
	1.90	2.70	2.00	2.60		2.27	1.80	
	2.10	2.35	1.50	1.50		2.15	2.35	
	1.70	2.75	1.90	2.30		2.70	2.85	
	1.85	2.15	2.10	2.80		2.30	2.65	
	2.20	2.10	1.60	1.80		3.00	1.55	
	2.30	2.20	2.50	1.70		2.10	2.20	
	1.15	2.55	2.80	2.10		2.40	2.20	
	1.50	1.90	2.90	1.50		2.00	3.40	
	1.55	2.30	3.20	1.80		1.60	3.10	
	1.40	2.20	4.00	2.30		2.40	1.83	
1.40		2.30	2.10			1.82		
1.30		2.40	1.70			1.90		
2.45		3.10	2.00			2.10		
2.85		2.00	1.70			2.20		
2.15		2.80	1.70			2.05		

※全長のわかるもの

表2 前期の石鏃長

熊山田遺跡	0	9
加茂政所遺跡	4	8
南方遺跡	12	81
赤田東遺跡	5	7
百間川今谷遺跡	15	44
百間川兼基遺跡	41	115
鹿田遺跡	3	4
高下遺跡	5	36
用木山遺跡	123	652
惣園第2地点遺跡	21	140
塩納成遺跡	2	12
才地遺跡	13	32
矢部堀越遺跡	15	32
前池内遺跡	6	10
南満手・窪木遺跡 (中期)	4	24
上竹西の坊遺跡	0	9
唐津北遺跡	2	10
貝殻山遺跡	19	22
城遺跡	13	19
菰池遺跡	11	20
奥坂遺跡	3	3

観察表のないものは掲載図を、欠損していても型式の観察できるものはカウントした

表3 石鏃の型式別個数

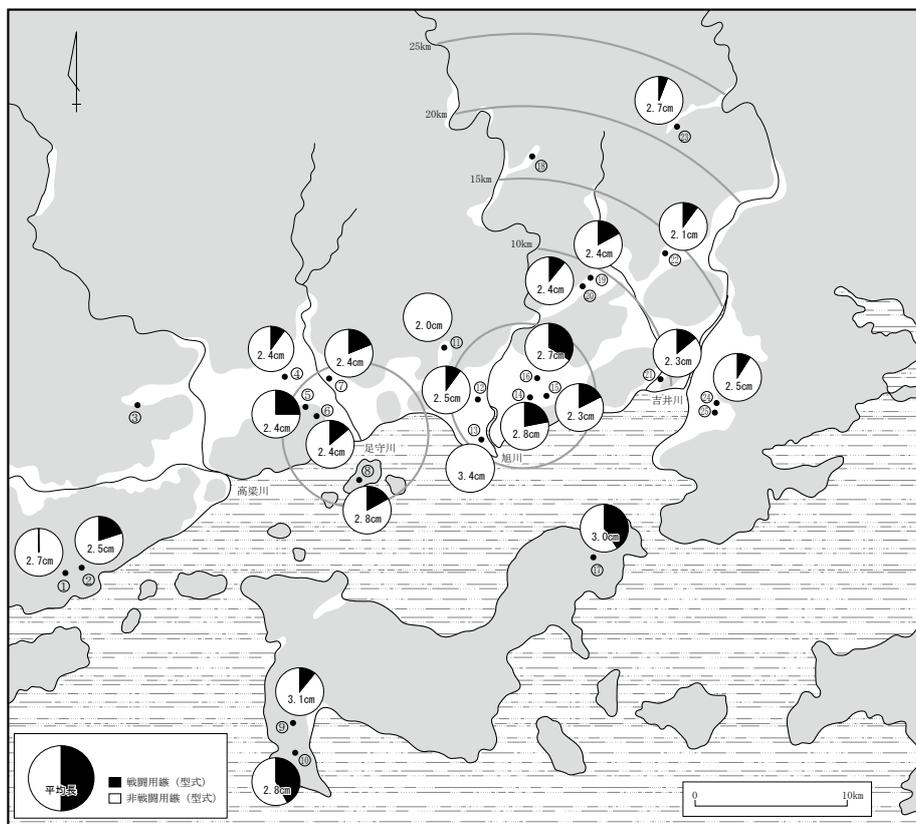


図 10 中期の石鍬平均長 (cm) と戦闘用石鍬 (型式) の比率

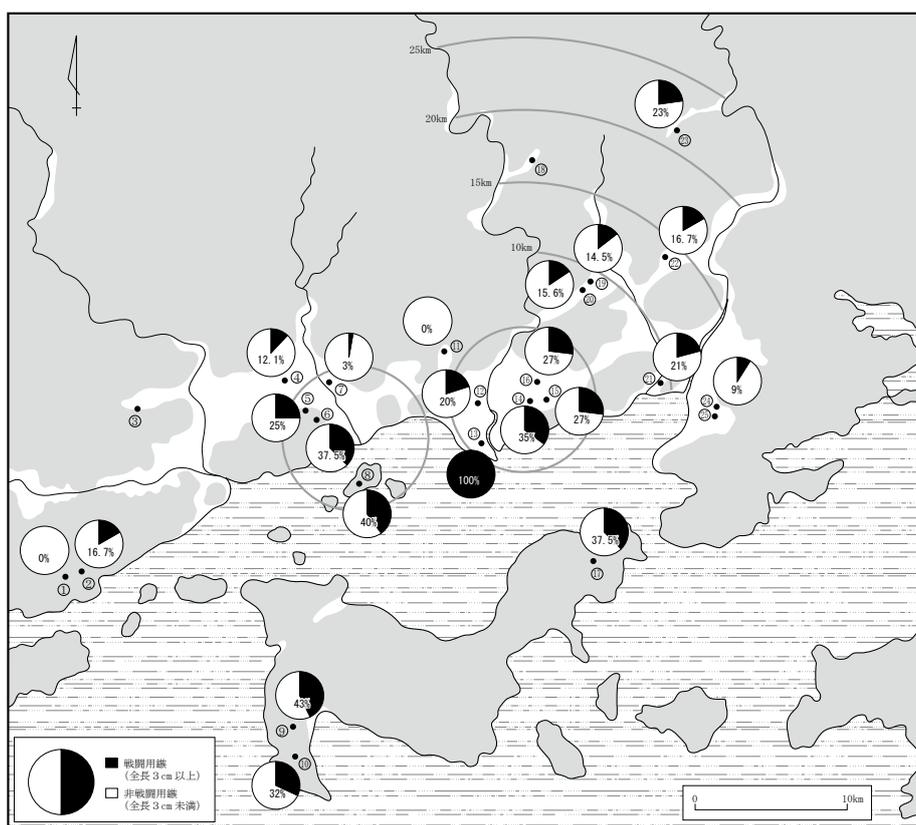


図 11 中期の戦闘用石鍬 (全長 3cm 以上) の比率

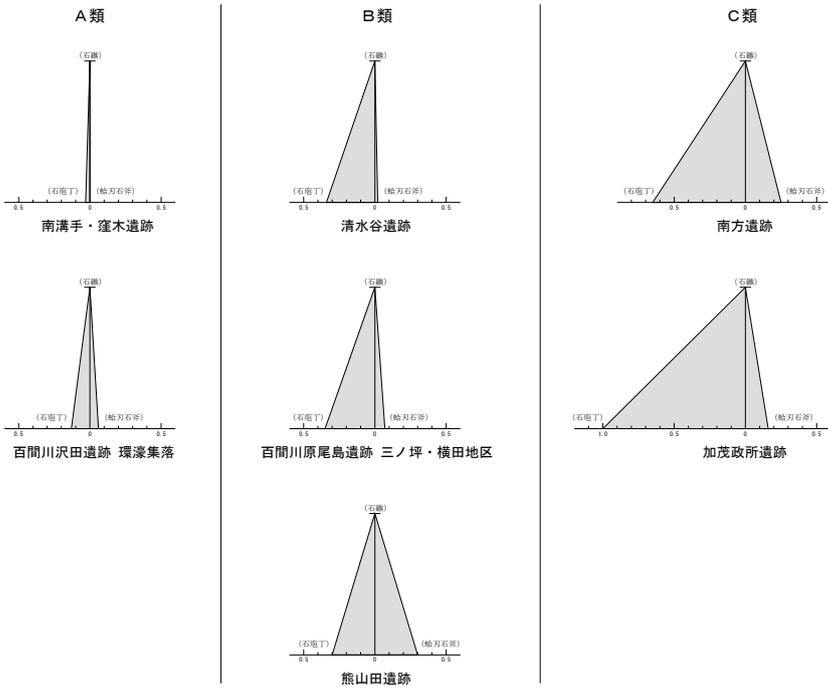


図12 石鏃・石包丁・蛤刃石斧の比率からみた集落の分類

遺跡	時期	石包丁	石鏃	蛤刃石斧
南溝手・窪木遺跡(前期)	前期1、2期	6	189	0
百間川沢田遺跡 環濠集落	前期2期	5	36	2
清水谷遺跡 環濠集落	前期2期~4期	28	82	2
百間川原尾島遺跡 三ノ坪・横田調査区	前期4期	15	43	3
熊山田遺跡	中期2期	4	12	4
加茂政所遺跡	中期2期	12	12	2
南方遺跡	中期2期	68	107	27
赤田東遺跡	中期2~3期	12	12	4
百間川今谷遺跡	中期2~3期	16	17	3
百間川兼基遺跡	中期2~3期	37	106	8
鹿田遺跡	中期3期	3	7	0
高下遺跡	中期3期	15	47	4
用木山遺跡	中期2~3期	181	1328	72
惣園第2地点遺跡	中期2~3期	82	200	22
塩納成遺跡	中期2~3期	6	15	4
才地遺跡	中期2~3期	18	32	6
矢部堀越遺跡	中期3期	39	47	1
前池内遺跡	中期3期	8	16	3
南溝手・窪木遺跡(中期)	中期2~3期	26	98	8
上竹西の坊遺跡	中期2~3期	4	10	0
唐津北遺跡	中期2~3期	2	12	2
貝殻山遺跡	中期2~3期	11	41	0
城遺跡	中期2~3期	7	32	0
菟池遺跡	中期2~3期	13	20	2
奥坂遺跡	中期3期	5	6	1

観察表のない場合は掲載個数

表5 石包丁・石鏃・蛤刃石斧の出土個数



図13 石包丁・石鏃・蛤刃石斧の分類からみた集落の分布